

2020

令和2年度「学部教育充実予算」

# 体育・スポーツの エキスパート育成プログラム 事業報告書

- アスリート・コーチ
- アスリートサポート
- 保健体育教員
- 健康運動指導者
- 生涯スポーツ教育者
- キャリア教育

福岡大学スポーツ科学部

令和2年度「学部教育充実予算」

# 体育・スポーツのエキスパート育成プログラム

事業報告書

## 目次

挨拶	01
プログラムについて	02
アスリート・コーチ育成プログラム	05
国内研修レポート（水泳部）	08
アスリートサポートプログラム	12
保健体育教員採用試験対策プログラム	14
健康運動指導者試験対策プログラム	15
キャリア教育実践プログラム	16
令和2年度 成果一覧	18

## スポーツ科学部長 米沢 利広

スポーツ科学部では、平成 23 年度からスタートした本学企画の「魅力ある学士課程教育支援プログラム」に申請し、2 年間に亘り 820 万円の支援を受けることができました。その内容は、平成 22 年入学生からスタートさせた本学部の新カリキュラムにタイアップしたものでした。新カリキュラムは、学生が就職等の進路先を視野に入れた科目履修ができるよう方向付けする(コース科目推奨群の設定)とともに、学年が上がるにつれて専門性が高められるよう編成されたものです。その新カリキュラムがこのプログラムに非常にマッチしたものであると考え、「体育・スポーツのエキスパート育成プログラム」と称して申請し、採択され、これまで多くの成果を得ることができました。

平成 25 年度からは「教育推進経費」として 3 年間で 1,174 万円、平成 28 年度からは「暫定的教育予算」として 2 年間で 879 万円の支援を受け、同様のプログラムを実施してきました。平成 30 年度からは「学部教育充実費」として 260 万円に減額されたものの、プログラム内容を縮小して実施してきました。そして、平成 31 年度および令和 2 年度は 430 万円に増額され、以前と同様なプログラムを実施することができ、プログラムの定着とコース色が色濃く出るような成果に繋がってきました。しかしながら、令和 2 年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、いくつかのプログラムが実施できず、学生教育に十分繋げることができませんでした。

本プログラムは、「アスリート・コーチ育成プログラム」「アスリートサポートプログラム」「保健体育教員採用試験対策プログラム」「健康運動指導士試験対策プログラム」「生涯スポーツ教育実践プログラム」「キャリア教育プログラム」の 6 つのプログラムで構成されています。スポーツ科学科 4 コースと健康運動科学科 3 コースにマッチングした内容であると同時に、授業(単位)での内容と深く関わり、スポーツ科学部の教育と魅力づくりに中心的な役割を果たすようになってきました。

令和 2 年度は、健康運動実践指導者 2 名と健康運動指導士 8 名の合格、そして保健体育教員の 1 次合格 10 名、最終合格者現役 5 名など、成果が現われていますが、アスリートとしての活躍やグローバル人材育成にも寄与している海外研修が行えなかったことは大変残念です。さらに、「キャリア教育プログラム」が実践されている 2 年次生対象の「ステップアップセミナー」では、オンデマンド形式の授業となり、これまでと同様の成果に結びつくのか多少の不安もあります。各プログラムの詳細及び成果等については、各プログラム責任者が報告していますのでご一読ください。

昨年、学部創設 50 周年を迎え、平成 2 年度はさらなる飛躍を目指してスタートする年でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響で、すべてのプログラムを実施することができませんでした。次年度は、すべてのプログラムが実施され、スポーツ科学部の教育に貢献することを切に願っています。最後になりますが、本プログラムを実践するにあたり、大学のご理解とご支援並びに学部教育に関わる多くの関係者のご尽力に厚くお礼申し上げます。

# プログラムについて

コーディネーター 今村 律子

スポーツ科学部では、平成 22 年度入学生から新カリキュラムのスタートに伴い、福岡大学の「魅力ある学士課程教育支援プログラムー体育・スポーツのエキスパート育成プログラムー」とタイアップしてさまざまなプログラムを実行してきました。カリキュラムの完成年度（平成 25 年度）にその効果を検証した結果、大変大きな効果が認められました。その後、平成 25 年度以降は、「教育推進経費」により本プログラムを継続し、平成 28 年度からは、減額されたものの「暫定的教育予算」によって継続してきました。そして、平成 30 年度からは「学部教育充実予算」として同様のプログラムを実施しました。このプログラムは、現カリキュラムの特徴であるコース制と連携をとるプログラムが多く、教育的な効果も高くなっており、スポーツ科学部の魅力をつくり出す重要なプログラムとなっています。

現カリキュラムは、1 年次生の学生が就職等の進路先も視野に入れた科目履修ができるように方向づけをする（コース推奨科目群の設定）とともに、学年が上がるにつれて専門性が高められるよう編成されたものです。

「体育・スポーツのエキスパート育成プログラム」は、本学部の現カリキュラムと非常にマッチしたものであり、これまでの 7 年間で多くの成果を得ることができました。平成 30 年度においても「学部教育充実予算」で申請し、これまでと同様のプログラムを実施しました。それぞれのプログラムでは、コース色が色濃く出て、期待以上の成果が上がりました。

本年度は、新型コロナウイルス感染症拡大のため様々な制約の中、各コースで創意を加え進められました。まず、アスリート・コーチ育成プログラムでは、前期開講の「ピークパフォーマンス演習Ⅰ」が全て遠隔授業になり、オープンキャンパス時の講演会も中止となりました。後期は構内の通信インフラが安定したため、令和 3 年 1 月 18 日に特別講演会として、陸上競技メダリストの飯塚翔太氏を招聘し、少人数の対面希望者と遠隔での学生参加によって無事に開催されました。このプログラムは、3 年次生対象の「ピークパフォーマンス演習Ⅱ」の単位とも連動させており、本年度は水泳部の学生 3 名が国内研修で多くの成果を得ています。研修を終えた学生は、現役学生たちへのフィードバックのためやプログラム周知のために、各学年の講義内で活動報告を行っています。

アスリートサポートプログラムのスポーツトレーナーサポートでは、プロスポーツチームのトレーナーである菅藤俊樹氏と芹澤隆介氏を招聘し、オンライン形式でセミナーを開催しました。スポーツ現場で活動しているトレーナーの話は、学生にとって一層目標を明確にする良い機会となりました。

保健体育体教員採用試験対策プログラムでは、4 年次生の保健体育教員コースの学生 15 名が「保健体育教職演習Ⅱ」を受講し、3 年次生の同コースの学生 33 名が「保健体育教職演習Ⅰ」を受講しています。本年度の講義はオンライン形式で実施し、各授業内で現役教師を招聘しました。また、対面可能な時期に 4 年生対象の 1 次試験対策講座および集団討論練習会などの 2 次試験対策講座も行いました。その結果、11 名が 1 次試験を合格し、そのうち 2 次試験は 5 名の学生が合格しました。本年度の採用試験は、各自自治体で試験形式の大幅な変更の自治体もあり、本年度は苦戦を強いられた年であったと思います。

健康運動指導士試験対策プログラムでは、筆記試験対策は全てオンラインで実施しました。4年次生の健康運動指導者コースの学生を対象に、健康運動指導士試験対策の「健康運動指導演習Ⅱ」を行い、6名（10名受験）名の学生が合格しました。3年次生の健康運動指導者コースの学生を対象とした「健康運動指導演習Ⅰ」の授業の中で、実技試験対策講座講（外部の講師）と筆記試験対策を実施し、健康運動実践指導者試験に2名（10名受験）の学生が合格しました。

生涯スポーツ教育実践プログラムでは、学外イベント・プログラムへ学生を派遣するといった計画を立てられていましたが、様々なイベント・プログラムの中止が相次いだことや、移動の自粛要請等の理由から、予定のプログラムをいずれも実施できませんでした。

キャリア教育プログラムとして例年実施しているステップアップセミナーでは、全プログラムを遠隔授業（オンデマンド形式）で実施しました。内容については、現役教員やミズノ株式会社などで活躍されている学部卒業生など、多方面で活躍している講師からのアプローチにより、受講生に将来を意識させる動機づけの充実が図られました。さらに、今年度は、全国でも初の試みとなる大学スポーツ協会（UNIVAS）と正課内授業での連携し、受講生のキャリア支援ならびに、大学内における UNIVAS 運用両面の充実に向けた取り組みが行われました。

本年度は、未曾有の出来事に遭遇しましたが、制限のある中で、各担当者の「学び続ける環境」を模索し、工夫した成果が得られたのではないのでしょうか。この一年の取組みは、当学部のオリジナルプログラムの新しい形としても、ポジティブにとらえることができたと思われまます。

## プログラムスタッフ

◇統括 米沢利広

◇アスリート・コーチ育成プログラム

乾 眞寛 米沢利広 片峯 隆 村上 純

田口晴康 柿本真弓 小牟礼育夫

田場昭一郎 坂本道人

◇保健体育教員採用試験対策プログラム

柿山哲治 梅田保人 今村律子

◇生涯スポーツ教育実践プログラム

霜島広樹 築山泰典 藤井雅人

◇コーディネーター 今村律子

◇アスリートサポートプログラム

布目寛幸 川中健太郎 下園博信

西田 智

◇健康運動指導者試験対策プログラム

道下竜馬 山口幸生 川中健太郎

◇キャリア教育プログラム

坂本道人 野口安忠 柿本真弓

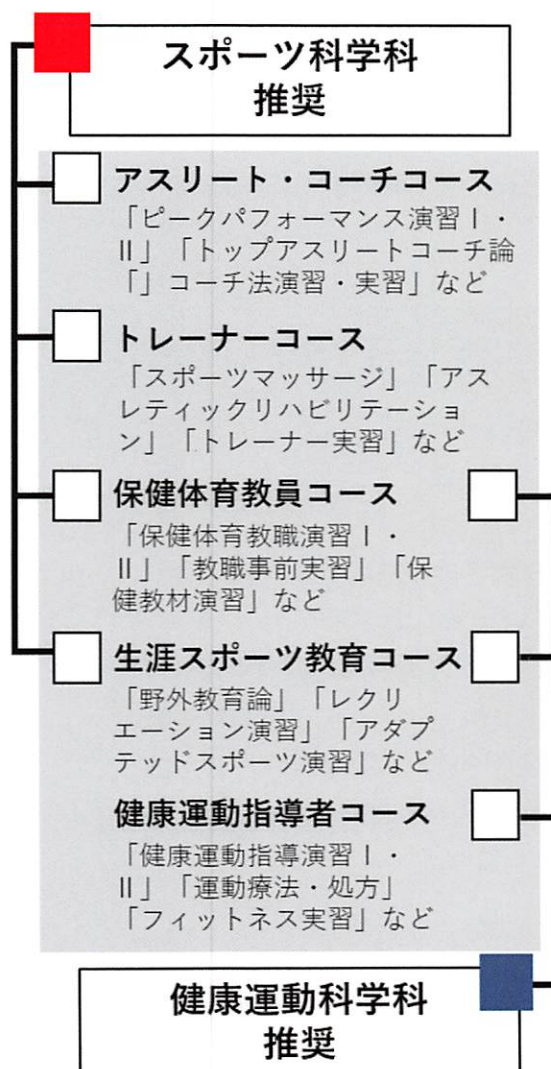
◇会計 吉山雅子

## プログラム概要

### 目標と特徴

スポーツ科学部では、平成 22 年度からスタートした現カリキュラムに向けて様々なプログラムを準備して実践してきた。このカリキュラムは、学生が就職等の進路先も視野に入れた科目履修ができるように方向付けをする（コース推奨科目群の設定）とともに、学年が上がるにつれて専門性が高められるよう編成されたものである。アスリート・コーチコースでは、平成 20 年度から 3 年間継続した「トップアスリート強化・支援のための実践プログラム」を一部継続しながら、全国大会上位入賞者および団体（チーム）のさらなる増加を、保健体育教員コースでは、3 年次からの人数制限科目の設定等により、教員採用試験の現役合格者あるいは卒業後早期合格者の増加を、健康運動指導者コースでも 3 年次からの専門家養成教育に重点を置くことにより、健康運動実践指導者および健康運動指導士の合格者の増加を、そしてトレーナーコースと生涯スポーツ教育コースでは、アスレティックトレーナーやトレーニング指導者、野外教育・レクリエーション指導者などのエキスパート育成を目指している。

アスリート・コーチコースの学生には、国内外で活躍する指導者や選手を招聘し、継続的な動機づけと明確な目標設定を行わせ、より高度な競技レベルへのチャレンジ精神と自発的に学ぶ姿勢を身につけさせる。さらに、国内外での研修を奨励し、国際的視野で活躍する人材を育成する。また、アスリートサポートプログラムでは、栄養サポート、メンタルサポート、フィジカル&バイオメカニクスサポートなどにより、サポートのエキスパート育成が期待できる。保健体育教員コースの学生には、教員採用試験突破に向けた講習会と勉強会を、健康運動指導者コースの学生には、健康運動実践指導者および健康運動指導士の試験合格に向けた講習会と勉強会を設定することで、意欲ある学生への支援が可能となる。トレーナーコースや生涯スポーツ教育コースの学生には、実践教育の場を供給できる点で効果が期待できる。また、2 年次生の開講科目「ステップアップセミナー」では、職業意識を高めるために、様々な職種の講師を招聘している。



# アスリート・コーチ育成プログラム

担当責任者 乾 眞寛

2011年度から始まった「体育・スポーツのエキスパートの育成プログラム」は、10年目を終えた。2008年度に開始した「トップアスリート強化支援のための実践教育プログラム」3ヶ年を合わせると、計13年間継続されてきたことになる。

プログラム当初の目標は、競技面での実績を高めることであり、世界的スケールで活躍する一流アスリートやコーチを本学にお招きし、その貴重な経験談を定期的に関ける場を現役学部生に提供することであった。そして、日本トップレベルを目指す志の高い学生を海外研修に派遣し、九州内や国内では経験できない環境に身をおくことで、高いモチベーションや挑戦する心を刺激することであった。

この継続した取り組みの成果により、日本国内のトップレベルで活躍する福大生アスリートの数は、年々飛躍的に増加し、全国ベスト8以上の入賞者または国体、チームは、プログラム開始前に比べて格段に増えている。本年度は、陸上競技部で短距離・跳躍・投てきブロックで全国優勝者や入賞者を多く輩出した。

2年次生に開講された「ピークパフォーマンス演習Ⅰ」では、授業内に計4回、オープンキャンパス特別講義に1回の計5回、外部講師をお招きし、トップアスリートから直接に経験談や苦労話、失敗談をお聞きする機会を設けている。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大により対面による講義形式は開催できず、2020年度はリモートによるオンライン講義の形式となった。リモート形式でも学生たちの関心度も強く、講義への出席状況も良好で、授業後に提出する課題レポートの感想文からも学生各自の心に大きく響くものがあったことがわかる。

3年次開講の「ピークパフォーマンス演習Ⅱ」では、年々海外研修や国内研修を希望する学生が増加してきており、本年度は、コロナ禍の影響から海外遠征は中止とし、国内研修のみ実施した。学生たちは、国内トップクラス的环境へ挑戦の場を広げている。その成果は、研修終了後に現役学生たちへとフィードバックされ、ハイレベルな環境で実践的なトレーニングを経験することが、いかに人を成長させるか？ということをもって実証してくれている。

研修を終えた学生は、チームの主力選手として活躍するだけでなく、卒業後には、プロスポーツ、実業団リーグ、全日本選手権など、活躍のステージを上げ、スケールアップした姿を見せてくれている。

これからも「九州の雄」にあまんじることなく、目標水準を高く保ち、グローバルなスケールで活躍できる人間性豊かなトップアスリートを育成することが、本プログラムの使命であると考えている。

プログラムを実施するにあたり、ご支援、ご協力いただいたミズノ株式会社様、その他の皆様に、心より御礼申し上げます。「福岡発、日本一経由、2021東京五輪、2024パリ五輪、世界行!!」これからも、福大生アスリートの更なる活躍に、熱いご声援を宜しくお願い申し上げます。

## 特別講演会 ゲスト講師

### 飯塚 翔太 氏 陸上競技(100m、200m)選手

#### <競技成績>

##### ベスト記録

100m (10 秒 08) 布勢スプリント(2017/6/4)

200m (20 秒 11) 日本選手権(2016/6/26)

##### 【世界陸上出場】

2013 年 モスクワ大会 200m 代表・4×100mR 6 位 (4 走)

2017 年 ロンドン大会 200m 代表・4×100mR 3 位 (2 走)

2019 年 ドーハ大会 4×100mR 予選 5 位 (2 走)

##### 【オリンピック】

2012 年 ロンドン大会 200m 予選 5 位・4×100mR 5 位 (4 走)

2016 年 リオデジャネイロ大会 200m 代表・4×100mR 2 位

##### 【アジア大会】

2014 年 仁川大会 200m 4 位・4×100mR 2 位(2 走)・4×400mR 優勝(3 走)

2018 年 ジャカルタ大会 200m 6 位・4×400mR 3 位(4 走)

##### 【東アジア大会】

2013 年 東アジア大会(天津) 200m 2 位・4×100mR 優勝(2 走)

##### 【アジア選手権】

2011 年 アジア選手権(神戸) 200m 4 位

中学時代から頭角を現し大学時代には世界ジュニア選手権で優勝し「和製ボルト」の愛称を持つ。リオ五輪、ロンドン世界陸上の 400m リレーで第 2 走者をつとめ 2 大会連続メダル獲得。100m～400m まで走れるマルチスプリンター。



## 受講生レポート

- ◆ 日本のトップで戦う飯塚選手のモチベーションの持ち方や普段の練習での取り組み方など参考になることばかりで、明日からの練習でしっかり実践していこうと思った。なかなかトップアスリートの生の講演は聞けないので、今回のことは今日で終わりではなく、これからの人生における新たなスタートの指標として部活動だけでなく普段の生活からも取り組むようにする。
- ◆ 1 番印象に残ったことは、怪我をして悔しい時でも爽やかに、という姿勢でした。自分の経験からすごく共感して話を聞くことができました。



- ◆ 今日飯塚選手の講演を聞いて、環境は自分で変えられるのだなと強く思いました。環境を言い訳にしまわうのではなく、ポジティブな思考や振る舞いに変えることで環境を変えていくことができるので、自分自身を一度見直そうと思いました。私も、飯塚選手のように自分のためだけではなく、応援してくださる人々に感謝の気持ちなどを走りや振る舞いで伝えていけるような選手を目指したいと思います。
- ◆ 今回の講演を受けて今後の競技人生に関わることをたくさん教えてもらうことができた。特に印象に残ったのは良いことの前には悪いことが起こるということである。飯塚さんのお話の中で、リオオリンピックの前に4人の走者全員が怪我をしていたことを知り、確かにそうだなと思った。自分が自己ベストを出した前の週に脚を痛めていたことなどが共感できる点であった。
- ◆ 今ある現状を受け入れ、マインドコントロールすることで良い環境が作られ、目標達成につながることを学んだ。私は負の連鎖が長引くことが多く悩んでいたが、断ち切るためには少しだけ普段と違う行動を取ることや周囲を見ることが大切であると学んだ。
- ◆ 飯塚さんの「悔しい時は爽やかに」という言葉がすごく心に残った。結果を出さないといけない時に怪我をしてしまって、負のオーラを出していた自分であったので、何事にも悔しさは爽やかに出していこうと思えました。
- ◆ 日本陸上界のトップを走り続けられている飯塚選手の話聞いて自分ももっと頑張ろうとモチベーションを上げることができました。飯塚さんの走りはとても速くて雲の上の存在だと思っていた選手が、自分と同じような悩みを持っていて、私自身スッキリした気持ちになりました。素敵な時間でした。
- ◆ 飯塚選手はとても前向きで明るい性格だなと感じました。自分の調子が悪い時でも表情はよくすることや悪いことが起きたら次は良いことがあるなど、気持ちの持ちようで未来は変わっていくのだと感じました。また、とても仲間思いであり、信頼される選手だと思います。自分も仲間から信頼される選手になりたいと思います。
- ◆ 私は陸上競技をしていて、全日本インカレで個人種目入賞という目標を持っていました。しかし、それは自分のための目標です。講演の中で、目標は自分のためではなく人のためというお話があったので、関わった人に結果で恩返しするという、感謝を形にしたいと思います。
- ◆ 飯塚さんはすごく自信に満ち溢れた姿ですごいいいと思いました。自分は人前に立つことが苦手なのですが、より大きな大会を目指していく上で人から見られることに慣れることは競技者としても教員を目指す上でも必要なことだと思いました。



## ピークパフォーマンス演習 II(水泳部:国内研修レポート)

研修先:那覇高等学校

期 間:2020年12月22日(火)~28日(月)

### <実習責任者:山口 祐一郎>

令和2年度のピークパフォーマンス演習 IIにおいて、沖縄県立那覇高校にて国内研修を実施した。新型コロナウイルスの影響で、通常なら令和2年6月に開催される予定であったジャパンオープンが令和3年2月へと延期になり、その大会に向けた強化合宿であった。

本学のプールも老朽化し、寒い中でのトレーニングは強度があがらず、今回は温暖な気候の沖縄で、強度の高い練習を積むのが第一の目的であった。また、那覇高校にはスポーツ科学部卒業生の大城敏裕先生がおり、チームビルディングに長ける指導者である。その先生が指導するチームに学ばせてもらい、これからのチームビルディングに活かしたいという思いもあった。

今回の合宿を実施して、練習の強度も驚くほどあがり、想定以上の成果を得ることができた。チームビルディングの面においても、大学生にも通じる面も非常に多く参考になった。特にマネージャーのレベルの高さには驚かされた。チームを支えるスタッフの充実がチームの成長に繋がっていると感じた。このような素晴らしい環境でトレーニングが積めたこと、また大学からの支援と、コロナ禍の中にこのような機会を与えて下さった関係者の方々に、感謝の念に堪えません。

### <スポーツ科学部3年:濱本 周樹 (GS180023) >

私たちは12月22日から28日の7日間、那覇高等学校の水泳部の練習に参加させて頂きました。那覇高校の生徒たちは心の底から純粋に水泳というものを楽しんでおり、良い雰囲気の中練習を行うことができました。今回の研修の目的として、普段と異なる環境下で練習の強度を上げることでした。温暖な気候のもと全力で練習に取り組み、十分な程に競技力の向上へと繋げていくことができたと思います。高校生に泳ぎや陸上トレーニングを教えたりすることにより、自らの言葉で相手に伝えることの難しさ、それができるようになった時の達成感を味わうことができました。また、チームスタッフやチームの雰囲気、あり方はとても参考になり、福岡大学水泳部のこれからのにも通じるものだなと思いました。来年度は最上級生となって、チームを引っ張っていく存在になるので、試合の結果だけではなく、態度や行動でも引っ張っていこうと思うようになりました。最後に、コロナ禍であるというのに、このような貴重な体験ができる機会を与えてくださった関係者の皆様方に感謝いたします。

### <スポーツ科学部 3年：小竹 蓮 (GS180079) >

12月22日～28日まで、沖縄県的那覇高校にて、合宿を行ってきました。

普段私たちの練習拠点となっている福岡大学室内プールは長水路です。今回合宿を行った那覇高校は短水路のプールでした。そこで、今回の合宿の目的として、スピード持久力の強化を個人的に掲げました。練習内容も、短い距離を何本も耐えるような練習が多く、自分の目的通りに強化する事が出来ました。

また、那覇高校の高校生達とも合同で練習する機会があり、泳法指導も行いました。自身の持っている能力や知識などを他人へアウトプットする事により、自身の更なるレベルアップにも繋がるので、とてもいい時間だったと思います。

また、MGさんの手厚いサポート(声出し、記録取り、捕食など...)があり、良い練習を積む事が出来ましたし、那覇高校の大城監督はチームビルディングを大切にしており、主将として、学ばされる場面も多々ありました。

この経験を糧にして、残りの水泳人生に活かそうと思います。コロナ禍の中でも受け入れてくださった、那覇高校の方々、ピークパフォーマンス演習の関係者の方々に感謝致します。

### <スポーツ科学科 3年：河野 龍人(GS180174) >

今回の研修の目的は、普段と異なる環境と指導者の元で来年の夏に向けて泳ぎのベースを作ることとトレーニングに参加しました。午前中は全体練習、午後はショートストロークチームとミドルロングチームに分かれ、私はミドルロングチームで練習しました。ミドルロングチームは高校生含め5人と少ない人数でしたが、練習終盤のキツイときに高校生と鼓舞する意味でハイタッチをしたりしてとても良い雰囲気の中練習に取り組むことができました。また、マネージャーの方々の声出しや練習の記録のアウトプット、練習後の捕食などの手厚いサポートもあり、非常に良い練習を積めました。那覇高校の大城先生によるチームビルディングもとても勉強になりました。今回の研修を通して個人競技でありながらもチームの重要性やサポートしてくれる方々の有難みを強く感じました。最後に、新型コロナウイルスが流行してる最中でありながらも研修に参加することができたのは、多くの方々のご支援や御理解、御協力があったからであり、関係者の方々に心より感謝申し上げます。

発表資料

ピークパフォーマンス演習Ⅱ  
那覇高校  
12月21日～28日

GS180023 濱本周樹  
GS180079 小竹蓮  
GS180174 河野龍人

1

スケジュール  
(12月22日)

- 福岡空港出発 12時35分
- 那覇空港到着 14時35分
- バスで移動 (約15分)
- 那覇高校到着 15時15分

2

練習スケジュール

22(火)	23(水)	24(木)	25(金)	26(土)	27(日)	28(月)
14時到着	6:30-8:30	6:30-8:30	6:30-8:30	OFF	8:30-10:30	8:30-10:30
16:30-19:00	16:30-19:00	16:30-19:00	16:30-19:00	OFF	15:00-17:00	14:30-16:30

3

1日の流れ

- 起床 6時
- 軽食
- 午前練習
- 朝食 (ホテル)
- 授業
- 昼食 (外食)
- 授業
- 午後練習
- 夕食 (外食)
- 自由時間 (ホテル内)
- 就寝 11時

4

スケジュール  
(12月28日)

午後練習後

- プールを軽く清掃
- バスで移動 (約15分)
- 那覇空港出発 19時15分
- 福岡空港到着 20時55分

5

那覇高校水泳部について

- 那覇高校水泳部(Sharks) 部員33名(選手22名 MG11名)
- 5年前は2人!
- 今年度実績: 沖縄県高校総体 男子準優勝 女子優勝, 男子400m800m FR 県記録樹立
- その他活動: 他校と合同練習, チームビルディングキャンプ, 月1回練習パーティなど

6

那覇高校水泳部 練習特徴

- チームビルディングが物凄く行われている
  - 練習の雰囲気が高く、選手同士の声掛けがプールで飛び交う
- チームスタッフ(MG)のレベルが高い
  - 毎回の練習で選手のタイムを計り、メモをして後に1人1人にフィードバックしてくれる
  - おにぎりを握り、選手に食べさせ披露した体に栄養補給

7

Short&Stroke Team 12/24

Short&Stroke				Middle&Long			
選手名	種別	タイム	順位	選手名	種別	タイム	順位
...	...	...	...	...	...	...	...
Total: 3800m				Total: 8100m			

8

### 練習風景①



全員で声出し！

9

### 練習風景②



大学生の陸トレを伝授！！



10

### 感想(生活面について)

- 栄養バランスを考えて食事した(朝食以外は各自だった為、試行錯誤した)

→ 自己管理能力の向上



11

### 感想(練習面)

- 普段とは違う環境(掘水路)のプールだったこともあり、新鮮な気持ちで練習ができた。
- 高校生への泳法指導で自身の知識をアウトプット。
- 那覇高校のMGさんの手厚いサポートがあり、練習に全力で打ち込むことができた。(タイム表、補食、声出し)



12

### 感想(この経験を通して)

- 自身の水泳に対する気持ちを再確認した、いい機会になった。
- 泳ぐだけでなく、自己管理能力の向上も必要だと感じた。
- 福大水泳部の名を全国に轟かせる！！  
★インカレで得点を取ることができる選手に→シード校へ



13

### 謝辞

このようなコロナ禍の中、御協力を頂いた関係者の皆様に感謝致します。

ご静聴ありがとうございました。

14

# アスリートサポートプログラム

担当者 西田 智

本学部では、スポーツトレーナーコースを設けスポーツトレーナー実習というコース独自の科目を開講している。毎年 15 人前後の学生がスポーツトレーナー実習を履修し、実技形式の授業を通して、より実践的な知識や技能を学んでいる。しかし、実習は学内で行うにとどまっており、学外との接点を作れていないのが現状である。さらに、本年度はコロナ禍の影響もあり、例年に比べて学内での実習も縮小されることが予想された。そこで、学内での実習時間不足の解消方法ならびに、次年度以降の足がかりとすべく、プロスポーツチームのトレーナーとして活躍されている方の生の声を聞くオンラインセミナーの機会を設けた。本セミナーは、将来スポーツトレーナーを志す学生にとって、実際にスポーツ現場で活動しているトレーナーと接点を持つことでより一層目標を明確に意識する良い機会になったと感じる。次年度以降もプログラムとして継続していく考えである。

※本セミナーは当該科目内で授業として行ったが、履修者以外にも 2 名の学生が参加した。

## <オンラインセミナー>

日時：2020 年 11 月 30 日（月）

講師：菅藤 俊樹氏

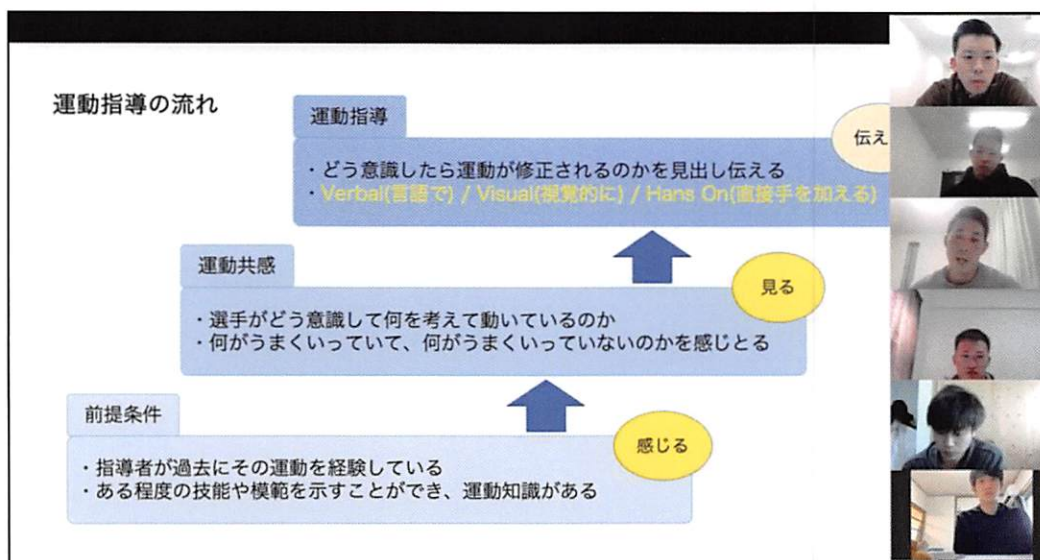
クボタスピアーズ ストレngth&コンディショニングコーチ

日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー、NSCA-CSCS

講師：芹澤 隆介氏

日本ハムファイターズ ストレngth&コンディショニングコーチ

日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー、NSCA-CSCS



\*菅藤氏：画像右端上から 2 番目、芹沢氏：画像右端上から 3 番目

## 受講生レポート

### <スポーツ科学部 3年 梶原康司>

本学部には私を含めストレングスやコンディショニング、トレーナーの勉強を希望する学生は多く、学ぶことができる環境は整っているが、学生の多くがそれらを職にする方法や実際の現場での活動について詳しく知るものはいなかった。そんななか授業担当の西田先生の友人でプロスポーツの現場でトレーナーとして活躍されているお二方の話を聞くことができた。トレーナーを生業とする方法、資格や契約について、実際の現場で求められることなどを詳細に教えていただいた。近年、スポーツ界におけるトレーニング方法は飛躍的な発展を遂げ、トレーナーの需要が高まっている一方、球数制限や練習のし過ぎなど多くの問題が注目されるようになってきたが、驚くべきことに、未だにプロスポーツ界でも非科学的な練習や指導、日本の古き風習が残っているようだ。日本スポーツの発展のためにも、こういったものを無くすことが我々トレーナーの卵に求められることだと感じた。

### <スポーツ科学部 3年 森内 鉄兵>

今回の講義を受ける前には、トレーナーになるために何が必要かということや、実際にプロチームのトレーナーの実務について深く理解はできていなかった。しかし、今回の講義を受けて、実際にトレーナーになるために行ってきた活動、取得した資格、プロチームでの詳しい活動やトレーナーになるまでとなった後のモチベーションなど、詳しく知ることができた。また、トレーナーとして常に心がけておくこと、それは「常に学び続けること」であると改めて実感し、ただなりたいという願望ではなく、覚悟も必要であると感じた。今回はトレーナーになるために、今何をすべきなのかを考え直す良い機会になった。残された大学生活で自分が置かれている環境を積極的に活用し、より選手のためになれるようなトレーナーを目指したいと思う。

# 保健体育教員採用試験対策プログラム

担当責任者 柿山 哲治

2020年度の教員採用試験1次合格者は、鳥取県高等学校に1名、福岡県中学校に3名、福岡市中学校に2名、佐賀県中学校に1名、長崎県中学校に1名、福岡県と佐賀県の小学校に各1名の計10名で、2次試験合格者は、福岡県中学校2名、長崎県中学校1名、福岡県と佐賀県の小学校に各1名の5名であった。長崎県中学校に合格した1名は、大学院生で学部生の時は保健体育教員コース生であった。なお、他の4名は保健体育教員コース外であり、今年度は保健体育教員コース生の合格は2014年度以来皆無であった。

今年度はコロナ禍で、教員採用試験においても変更があり、福岡県の一次試験で課されていた集団討論がなくなり、実技試験も一次試験から二次試験へ移行された。また、北九州市においては一次試験（筆記試験・適性試験）が実施されず、二次試験のみの選考となり、実施方法等に変更が見られた。したがって、例年一次試験対策として実施していた実技試験対策は、二次試験の対応となり、ハードル走（梅田教授）、柔道（坂本准教授）、器械運動（大坪助教）、バレーボール（太田助手）、ダンス（川崎元助手）に、対面や遠隔で指導を行って頂いた。また、場面指導、模擬授業、個人面接については、梅田教授、柿山教授、今村准教授で、卒業生の希望者も加えて8月に対面や遠隔で実施した。

## <2020年度 公立学校教員試験合格者>

山口継太、重松優里（福岡県中学校）、中村梨紅（福岡県小学校）、豆田稚奈（佐賀県小学校）、倉本昂洋（大学院生・長崎県中学校）

## 合格者レポート

### <健康運動科学科4年 豆田稚奈（佐賀県小学校）>

私は、教員になりたいという漠然とした夢がありました。しかし、どの校種で採用試験を受験するか悩んでいるおり、選択の幅を広めようと、2年次から小学校教員免許取得支援プログラムに参加しました。通信教育であるため、レポートやスクーリングは自分で進めていくしかないもので、計画性を持って取り組みました。採用試験の勉強は3年次の秋から本格的に取り組み始めましたが、通信教育のレポート等の関係もあり、思うように進めることができないこともありました。しかし、コロナ禍の影響で家にいることがほとんどだったため、幸いにも時間はあり、自分のペースで進めることができました。私は一般教養にあまり自信がなかったため、毎年ほぼ出題内容に変化が少ない、教職教養を重点的に、過去問や参考書を繰り返し解くようにしました。



2次試験の対策は情報収集が鍵だと思います。私は、昨年受験した先輩に試験の内容や流れを教えていただいたので、自分なりの対策も立てることができました。また、模擬授業や面接は自分から声をかけて色々な人にアドバイスをもらうことも、とても大切だと思います。試験まで長い道のりですが、自分を信じて夢に向かって頑張ってください。



# 健康運動指導者試験対策プログラム

担当責任者 道下 竜馬

本プログラムは、公益財団法人健康・体力づくり事業財団認定の健康運動指導士および健康運動実践指導者の資格取得を目指す学生を対象に、実技試験および筆記試験対策を下記日程および健康運動指導演習の授業で実施した。特別講師として、健康運動実践指導者の実技試験指導については中山蒔氏（スタジオパラディソ、健康運動指導士）をお願いした。なお、本年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、筆記試験対策は全てオンラインで実施した。本プログラムの成果として、令和元年度健康運動実践指導者認定試験には3年次生10名が受験し、2名が合格した（全体の合格率：58.8%）。第145回健康運動指導士認定試験には4年次生10名が受験して、6名が合格（全体の合格率：61.5%）、第146回認定試験には5名が受験して2名が合格した（全体の合格率：55%）。

## <実施日程>

令和2年11月30日、12月7日、12月14日：実技試験対策講座

令和2年9月14日～10月12日：健康運動指導士筆記試験対策講座

## 合格者レポート

### <健康運動科学科4年前田梨沙（令和2年度健康運動指導士合格）>

本校の健康運動指導士試験対策プログラムのおかげで、健康運動指導士の資格を取得することができました。本プログラムでは、單元ごとに専門の先生方から学ぶことによって、幅広い試験範囲の内容を効率よく学ぶことができ、万全な状態で自信をもって試験に臨むことができました。我が国の急速な高齢化の中では、個々人が自立した生活を送ることがより一層重要となってきます。今後はこのプログラムで学んだことを活かして様々な健康問題に取り組み、社会に貢献できる人を目指していきます。



### <健康運動科学科3年三戸佳織子（令和2年度健康運動実践指導者合格）>

本校の健康運動指導者試験対策プログラムを受講したことで、健康運動実践指導者の資格取得を達成することができました。実技対策では、私自身1回の授業をリモートで受けたのですが、その時は自宅で受けていたということもあり、あまり集中して受けることができず、実際の動きをみにつけることができませんでした。しかし、2回目からは対面で受講し、先生をはじめ友達にも教えてもらうことでしっかりとテスト対策を行うことができました。筆記対策では、授業を行う中で模擬テストも多く行われたため、効率よく対策ができたと感じております。このような試験合格を目指したプログラムによって、テスト当日も緊張をしながらも自分の実力を発揮することができ、短期間で資格取得に繋がりました。これからは健康に携わる者として、さらなる知識を身につけ、健康運動指導士の資格取得に向けた勉強を行ってまいります。



# キャリア教育プログラム

担当責任者 坂本 道人

今年度のステップアップセミナーは、新型コロナウイルス感染症の影響のため、全プログラムを遠隔授業で実施した。遠隔授業の形態については、オンデマンド型授業を採用し、遠隔授業対応に追われる学生にできるだけ配慮する内容とした。内容については、昨年に引き続き現役教員やミズノ株式会社などで活躍されている学部卒業生に協力を賜り、本学部生の特性や興味に沿うだけでなく身近な存在からのアプローチにより、受講生に将来を意識させる動機づけの充実を図った。さらに、今年度は、全国でも初の試みとなる大学スポーツ協会 (UNIVAS) と正課内授業での連携をはかり、受講生のキャリア支援ならびに、大学内における UNIVAS 運用両面の充実に取り組んだ。

本講座における最大の目的は、次年度から就職活動をスタートする2年次生に、今何を考え準備しておくべきかを考えさせることにある。今年度を振り返って、やはり対面形式での授業が理想ではあるが、多くの関係各位のご理解とご協力を賜り、この状況下においても講義の内容面において充実した質を確保することができた。この場をお借りして、ご協力いただいた関係各位に心よりお礼申し上げるとともに、この講座を機に、一人でも多くの学生が充実した就職活動をスタートしてくれることを切に願う。

## 講師一覧

第1回	(9月17日)	: ガイダンス
第2回	(9月24日)	: コンピテンシーテスト(株式会社リアセック)
第3回	(10月1日)	: 本学の就職・進路支援の実際 (就職進路支援センター)
第4回	(10月8日)	: 牛島 直輝 氏(平成27年度卒:福岡県立小倉南高等学校 定時制)
第5回	(10月15日)	: 外田安堂 氏(令和元年度卒:ミズノ株式会社)
第6回	(10月22日)	: コンピテンシーフォローアップセミナー(株式会社リアセック)
第7回	(10月29日)	: UNIVAS デュアルキャリアプログラム(計画力)
第8回	(11月5日)	: UNIVAS デュアルキャリアプログラム(課題発見力)
第9回	(11月12日)	: UNIVAS デュアルキャリアプログラム(主体性)
第10回	(11月19日)	: UNIVAS デュアルキャリアプログラム(挑戦し続ける力)
第11回	(12月3日)	: UNIVAS デュアルキャリアプログラム(まとめ)
第12回	(12月10日)	: 現役学生による講義 首藤圭祐 氏(福岡トヨタ自動車(株))
第13回	(12月17日)	: 就職活動をどのように取り組むのか? (就職進路支援センター)
第14回	(1月7日)	: まとめ

## 受講者レポート

### 第3回 (10月1日) 講師：假野 陽介 氏 (就職進路支援センター)

私は、自分が好きなこと・楽しいことをメインに仕事をしたいと思っている。しかし、「例えば“旅行が好き”なことと“旅行会社で働く”ことは違う」とあり、自分が行動としてどういった時にやりがいを感じるか・楽しいかということが大事だと知った。だから、自分が何をしている時にやりがいを感じるか、もっと自分自身について知っていくことから始めていこうと思った。(GS 女子)

### 第4回 (10月8日) 講師：牛島 直輝 氏 (平成27年度卒：福岡県立小倉南高等学校 定時制)

今回の講義を受講して、行動力は成功力という言葉が印象に残った。自分は行動をする前に何度も考えて、失敗したらどうしようと心配を必要以上にしてしまう。しかし、今回の講義の言葉にもある「失敗も経験。多くの経験を得ることで目標や夢の実現につながる」という言葉が示しているように、失敗を恐れずにどんどんやりたいことをやってみて経験を積んでいきたい。(GS 男子)

### 第5回 (10月15日) 講師：外田 安堂 氏 (令和元年度卒：ミズノ株式会社)

改めて、事前準備が欠かせないということを感じました。そして、知らない会社や部署などに対してもチャレンジ精神で何事にも取り組んでいくことが新たな成長につながることを学びました。知っていることだけを追求するのではなく新しいところに入っていくことも就職し次のステップへ進むときに大きな力になると思いました。(GS 女子)

### 第7～11回 (11月28日～12月3日) 講師：UNIVAS デュアルキャリアプログラム

自分が行ってきたことに結果がついてくれば絶対自信となりいい影響を与えてくれると思う。この毎日の自分の行動を見直していけばいつの日か自分が目標にしていたもの以上のことが達成出来る気がしてきて頑張ろうと思った。(GS 男子)

### 第12回 (12月10日) 講師：首藤圭祐 氏 (現役学生による講義 福岡トヨタ自動車(株))

首藤さんは自分の就活軸とそれぞれの企業先の目指すところ・求める資質と照らし合わせながら、就職の幅を広げていました。多くの会社・企業がある中で、自分の就活軸というものがしっかりしていることは、理想の就職先を見つけやすくなるので、自分は教員を志望しているのですが「理想の教員像」を常に持っていようと思います。(GH 女子)

# 令和2年度 成果一覧

## 団体の部

### <ソフトボール部男子>

全国大学選抜男子ソフトボール選手権大会 第2位

### <モーターボート・水上スキー部>

桂宮杯全日本学生水上スキー選手権大会 男子総合 第3位

### <陸上競技部>

第104回日本陸上競技選手権大会リレー大会 女子4×100mR

城戸 優来(GH1) 渡邊 輝(GS3) 加藤 汐織(GS1)

第89回日本学生陸上競技対校選手権大会 総合の部 第3位

第89回日本学生陸上競技対校選手権大会 フィールドの部 第3位

第89回日本学生陸上競技対校選手権大会 多種目優勝の部 第1位

第89回日本学生陸上競技対校選手権大会 4×100mR 第1位

城戸 優来(GH1) 渡邊 輝(GS3) 加藤 汐織(GS1)

## 個人の部

### <陸上競技部>

高島 真織子(GS3) 第89回日本学生陸上競技対校選手権大会 三段跳 第1位

上田 百寧(GS3) 第89回日本学生陸上競技対校選手権大会 やり投 第1位

第104回日本陸上競技選手権大会 やり投 第3位

尾山 和華(GS4) 第104回日本陸上競技選手権大会 砲丸投 第3位

### <モーターボート 水上スキー部>

鈴木 太智(GH1) 桂宮杯全日本学生水上スキー選手権大会 男子スラローム 第1位

## 国際大会

### <陸上競技部>

上田 百寧(GS3) セイコーゴールデングランプリ やり投 第5位

## 教員採用試験

### <小学校>

中村梨紅・福岡県(GH4) 豆田稚奈・佐賀県(GS4)

### <中学校>

山口継太・福岡県(GS4) 重松優里・福岡県(GH4) 倉本昂洋・長崎県(GD2)

## 健康運動指導士及び実践受講者認定試験

### <健康運動指導士>

#### ・145回認定試験合格者

前田 梨沙(GH4) 福本 萌香(GH4) 廣瀬 朝耀(GH4)

河埜 亜季(GH4) 中村 成吾(GH4) 坪根 美来(GH4)

#### ・146回認定試験合格者

北園 愛海(GH4) 奥 瑞稀(GH4)

### <健康運動実践指導者>

三戸 佳織子(GH3) 佐藤 佳奈(GH3)

## JATI

菊池圭平(GS5) 桐崎拓哉(GS4) 橋元建(GS4) 横井直樹(GS4) 山崎雄矢(GS4)

嶋江健太(GS4) 齋藤雅也(GS4) 宮原寛人(GS4) 山下光輝(GS4) 山口継太(GS4)

令和2年度「福岡大学 学部教育充実予算」  
体育・スポーツのエキスパート育成プログラム事業報告書

---

発行 令和3年 3月  
編集 米沢利広 乾眞寛 西田智 道下竜馬 柿山哲治  
坂本道人 太田七瑠 今村律子  
発行者 福岡大学スポーツ科学部  
福岡市城南区七隈8丁目19番1号  
092-871-6631 (代表)  
印刷 有限会社 新幸印刷

---

<https://www.spo.fukuoka-u.ac.jp/>

